

## 1 学校教育目標

- ・みずからを鍛え みずからを伸ばす生徒
- ・正しく判断し 責任をもつ生徒
- ・人を大切にし 社会に尽くす生徒

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 生徒・保護者・地域・教職員、全ての人誇りと喜びを感じることのできる学校</li> <li>① 生徒一人一人を大切に学習指導で、基礎・基本を身に付け、学ぶ楽しさを感じながら夢や希望を育む学校</li> <li>② 確かな信頼関係の下、生徒の主体的な活動を促し、充実した体験活動や人間関係の中で豊かな人間性を育む学校</li> <li>③ 思いやりの心を育成し、心身ともに健全な奉仕の心をもった生徒を育成し、保護者や地域の期待に応える学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>◎ 心豊かで 優しさあふれる 青井の子</li> <li>① 生涯にわたって健康で明るい生活ができるよう心身の鍛錬に努め、自ら学ぼうとする生徒</li> <li>② 社会的に正しい判断ができ、自己の思いをしっかりと伝えられるとともに、相手の意見もしっかり受け止められる生徒</li> <li>③ 自立した社会人として成長するための知識、資質を身に付け、思いやりの心をもって社会貢献しようとする生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教育公務員としての使命と責任を自覚して、情熱をもって教職の遂行に努める教師</li> <li>② 区民の教育に寄せる期待と負託に応えるために、常に資質を磨く努力をし、生徒の成長や発達を深く理解して、指導できる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

### 【学校の現状】

- 学校について [よさ] 少人数の良さを生かし、全教職員で生徒一人ひとりに目を向けきめ細やかな対応を図っている。  
[課題] ①基礎学力の向上と個に応じた指導の充実、学年間の学力差の解消 ②自己肯定感の育成 ③学校教育と家庭教育の連携
- 生徒について [よさ] 純朴で明るい。穏やかに生活している。学校に愛着をもち、よりよい学校づくりに意欲的に取り組もうとする生徒が多い。  
[課題] ①社会性を磨き、学力の必要性を認識して、学力向上を図る。 ②自己肯定感・自己表現方法の育成を図る。
- 教師について [よさ] 教員数が少ない中、授業・委員会活動・学級指導・補充教室・特別活動・部活動などに真摯に取り組んでいる。  
[課題] ①指導力の向上 ②人権尊重意識の向上
- 保護者・地域について [よさ] PTA 役員・地域ともに協力的である。「地域の学校」との思い入れや期待が様々な場面で感じられる。  
[課題] 保護者の学校支援（PTA 活動、授業参観・保護者会等の出席者数など）が減少している。

### 【前年度の成果と課題】

- 基礎学力の定着と向上 区学力調査の通過率は、目標を約 1.6 ポイント上回ることができたが、学年・教科の格差が大きく、指導法の工夫が必要である。A I ドリルを活用した家庭学習とそれに連動した放課後補充教室、朝読書に生徒はよく取り組んだ。今後は、一人ひとりに目標をもたせ、個に応じた指導を補充教室、少人数授業で継続実施し、更なる基礎学力の定着と向上を図っていきたい。
- 教師の学習指導力向上 小中連携の進め方を見直し、課題に応じた研究を実践できた。校内で授業見学月間や授業見学週間を設定し、統一の「授業相互参観カード」を活用して授業力向上に努めた。生徒の学習改善や教師の指導改善につながる学習評価になるよう「指導と評価の一体化」を確実に進めてい

く。また、今年度も小中連携と教科指導専門員の活用、「道徳」を中心に指導技術の向上にも取り組んでいく。

○生徒・保護者との信頼関係に基づいた生活指導 道徳、キャリア教育、特別支援教育等、心に響く指導に努め、生徒・保護者との信頼関係を強める。

#### 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R4	R5	R6	R7	R8
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	教師の学習指導力の向上	○	○	○		
3	生徒の自己肯定感の向上と生徒・保護者との信頼関係に基づいた生活指導	○	○	○		
4						

#### 5 令和6年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎学力の定着と向上		区学力テスト 目標通過率 65%				自己評価の際に記入			
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 新規	教員の学習指導力の向上	全教員	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業見学週間を活用したOJTの推進</li> <li>各自年間3回以上の授業参観、授業参観シートを活用した評価の共有</li> <li>小中連携研修の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理職による授業観察・評価</li> <li>授業観察シートを管理職に提出、評価をチェック。</li> <li>生徒授業評価</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒による授業評価の肯定的評価 80%以上</li> </ul>	自己評価の際に記入		
2 継続	ICTの活用	全教員	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル教科書の活用(数・英は学習者用デジタル教科書)</li> <li>様々な教育用アプリの活用例を共有し、活用実績を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート</li> <li>活用確認調査</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>肯定的回答 80%以上</li> <li>80%以上実施</li> </ul>			

3 新規	学校図書館の活用推進	全学年 全教科	通年	利活用推進校として、図書閲覧室と学習室の機能を強化するための環境整備を進め、利用率の向上と各教科との連携を推進する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境整備</li> <li>・利用生徒数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習室の整備完了</li> <li>・図書館利用者数 20%増</li> </ul>	自己評価の際に記入
4 継続	基礎学力定着に向けた取組	全学年 全教科	通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習とリンクした放課後補充教室の実施</li> <li>・朝読書により読書に親しむ態度と読解力の育成</li> <li>・定期考査前の自学自習教室(青井タイム)の実施</li> <li>・サマースクールの充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後補充合格率</li> <li>・読書に関する評価</li> <li>・青井タイム参加生徒数</li> <li>・講座数・参加生徒数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後補充合格率 90%</li> <li>・読書に関する肯定的評価 80%</li> <li>・青井タイム参加数延べ100名以上</li> <li>・講座数8、参加生徒数延べ100以上</li> </ul>	

<b>重点的な取組事項－2</b>		教師の学習指導力の向上					
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>		<b>実施結果</b>		<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
小中連携・校内研究を通じた学習指導力の育成		以下の研究授業等の実施		自己評価の際に記入			
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>							
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>		<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>	
小中連携研修	小中合同研修会において、授業公開・指導案検討・研究授業・協議会を実施する。年間6本の研究授業・5回の協議会を開催する。	「言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力を育成する授業展開の工夫」を青井中・青井小・加平小3校共通の研究課題とし、指導案検討を行い、年間6回の研究授業を行う。		自己評価の際に記入			

授業研究の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成果発表授業、研究授業を5回以上実施する。</li> <li>・授業見学週間を教科・道徳で実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科指導専門員を活用し、授業改善に日常的に取り組む。公開授業・研究授業を行い、指導力の向上を図る。</li> <li>・道徳授業地区公開授業とリンクさせ、道徳研究授業に取り組み、指導力の向上を図る。</li> </ul>			
---------	---	--	--	--	--

<b>重点的な取組事項－3</b>		生徒の自己肯定感の向上と生徒・保護者との信頼関係に基づいた生活指導			
<b>A 今年度の成果目標</b>		<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自己肯定感向上研修と生活指導		生徒・保護者・地域からの学校評価で肯定的な回答90%	<b>自己評価の際に記入</b>		
<b>B 目標実現に向けた取組み</b>					
<b>項目</b>	<b>達成基準</b>	<b>具体的な方策</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
自尊感情・自己有用感等の育成研修、特別支援教育研修の実施	校内研修・授業研究・公開授業を6回実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自尊感情や自己有用感等を育成するため、特別支援教育や人権教育・キャリア教育の研修も取り入れ、授業者のスキル向上に努める。</li> <li>・研修は職員会議後に設定するなど計画的に実施する。</li> </ul>	<b>自己評価の際に記入</b>		
自他を尊重する規範意識の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活指導部会を定期的に実施する。</li> <li>・生徒アンケートで、「きまりを守っている」という回答が、80%以上</li> </ul>	生活指導方針に基づき、凡事徹底を図る。生活指導部会で認識を共有し、生徒指導に当たる。主体的に委員会・行事を運営させることで、規範意識の向上に努める。			

<p>家庭と連携した生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談等を年に2回行う。</li> <li>・修学支援委員会の定期的実施する。</li> <li>・必要な生徒・家庭への特別な支援を実施する。</li> <li>・いじめの早期発見と解消を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年、教育相談を7月・12月に行う。</li> <li>・修学支援委員会(特別支援 兼 不登校対策)を毎週開催し、情報交換を行う。SC・SSWと連携して対策を検討する。</li> <li>・担任は、支援が必要な生徒・家庭と随時連絡・相談を行い、青井ルームの活用、外部機関との連携等を図り、不登校の解消・未然防止に努める。</li> <li>・日常の観察と家庭との情報交換、定期的ないじめに関するアンケートを実施し、早期発見と早期解決を図る。</li> </ul>			
--------------------	---	--	--	--	--

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

### (3) その他(学校教育活動全般について)

自己評価の際に記入します。  
 経営計画の策定段階では、このページは行数を減らして圧縮したり、ページ自体を削除したりした上で、公表していただいても差し支えありません。